

研修テーマ 国語科「言語活動を位置づけた単元構成」について
 開催日時 平成30年7月31日(火) 9:00~12:00
 実施場所 南部町立会見小学校 会議室
 指導・助言者 ノートルダム清心女子大学 文学部 伊木 洋 准教授

1 研修の実際

(1) 講義「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進

—学習内容の改善・充実にむけて—

まず、国語科教育の目指すものとして「言葉を使って幸せに生きていく力」「生活に生きて働く力」をつけること、「言語文化の継承と創造」そして「ことばの力を育てる」ことが最も大事なことであると話された。

次に、新学習指導要領の改訂の国語科におけるポイントとして児童が言葉に着目し、言葉に対して自覚的になるよう、学習指導の創意工夫を図るために、大きく次の3つのことを挙げられた。それは、①語彙指導の改善・充実②我が国の言語文化に関する指導の改善・充実③読書指導の改善・充実ということだ。これを踏まえた上で、国語科の単元学習を考えていく必要がある。つまり、「言語感覚を養う」「言葉によって相手とのつながりをつくる」すなわち「ことばを育て人を育てる」ことを授業者が意識して、単元学習を組み立てていくことの大切さを説明された。

そして、「大村はま国語教室における語句・語彙指導」の実際として、言葉を生活の場面の中で学ぶという考えを生かしたゲーム的な形の学習を紹介していただき実際に行った。同じ「おどろく」という意味の言葉にも「開いた口がふさがらぬ」「あきれぬ」「あつげにとられる」など20ほどの言葉があり、選んだ言葉にふさわしい場面を考えて、その言葉を当てる活動を通して、言葉には人の深い心情や相手との人間関係も関係していることを実感させられた。



(2) ワークショップ…『うた』に託して思いを伝える—単元 この一句をあの人に—

「我が国の言語文化に関する事項の指導」として、授業を体験させていただいた。学習の進め方は次の通りである。

- ①句集・資料を読んで、心ひかれた俳句を三句選んで、一句にしぼる。
 - ・俳句・作者名・鑑賞・解説
- ②その一句を贈りたい人を決め、「一句に添える手紙」を書く。
 - ・贈りたい一句・季語・季節・作者名・心ひかれた言葉・贈りたい人・「一句に添える手紙」
- ③短冊に俳句を書く。裏面に贈りたい人・一句に添える手紙を書く。
- ④グループで紹介し合い、コメントを交換し合う。(交流)
- ⑤学習記録を整理する。(自己評価)
 - ・学び得たこと・学習前後の変容

(3) まとめ

国語単元学習の意義について「国語単元学習は理念であり、方法論ではなく、目標に向かって創意工夫するべきものである」と総括された。

2 成果

講義やワークショップを通して、国語科の目指す方向について具体的な理解が深まり、児童の姿を基にした「言葉を大切にしたい学習に向けた授業づくり」を具体的にイメージすることができた。また、ワークショップで指導の実験を体験することで、国語単元学習を行う上で大切なのは学び手一人一人の実態に応じた目標を明確に設定し、創意工夫されなければならないことや個に応じた支援の仕方など、具体的に学ぶことができた。単元学習を通して、知識や技能だけでなく、仲間づくりや心を育てることができると実感することができた。言葉にこだわり、自分の気持ちを深く見つめることの心地よさや人と自分の思いを語り合う楽しさを実際に体験できたことは、今後の授業づくりを進める上で大きな収穫になった。

～研修後の感想より～

- ・講義はもちろん、ワークショップがとても楽しく、勉強になった。子どもの気持ちになってつまづきや不安、緊張を感じられたことは、学級の子どもへの支援につながると思う。また、図書館の活用の仕方や触れさせたい俳句にたくさん触れさせるための活動の設定など願いやめあてをはっきりとさせた授業づくりが体験を通して勉強できた。

- ・語彙指導の具体例を実際にやってみることで、その言葉を使うに当たって、人間性が感じられ、

相手との人間関係が描かれているということに改めて気づいた。使っていく上で気をつけていきたいと感じた。言葉にのせて思いを伝えるということがとてもすてきだなと感じることができた研修だった。

- ・言葉にこだわる楽しさを味わわせていただいたことは、とてもよい時間だった。自分を語る、伝える、伝え合う喜びを分かり合う味わうために言葉を大切にしたい学習を実践できるよう努力したいと思った。

- ・語彙を身につけることで、子どもたちの言語活動が豊かになるということがよく分かった。語彙を多く持つということは、豊かな人生にもつながるということも実感できた。俳句の学習もとても楽しかった。言葉の持つ魅力は、限りなく広がること、それは解釈する人によって何通りにもなり得るということも実感できた。2学期の授業づくりに生かしていきたい。

- ・先生が回っておられる間の声かけや本の選定の説明の中などに、ヒントになること、大切にしたいと思うことがたくさんあった。子どもの姿から学習することを決めるということ、道徳や特活だけでなく学習を通した仲間づくりと言われたことも研修を通して感じられた。話すこと、聞くことを大切にしたいと思っても、なかなかできていない。まず話したいと思えるように時間を確保すること（私ができなくて困っている様子を見て声をかけてくださり安心した、そのような安心感を持てるようにすること）友だちの考えを聴きたいと思えるような仕掛けをして、小グループから全体でも聴き合える仲間づくりを学習できた。

- ・話を聞くだけでなく、ワークショップで主体的に学ぶことによって、単元学習をどうとらえていったらいいのか分かった。言葉を選ぶとき、俳句を選ぶとき、その時でも思考している。自分が選んだ俳句をどう読み取り表現したいか考える。自然に自らの学びになっていた。そういった学習を仕組んでいきたいと思った。

